

水はふたたび私たちのもとへ

久保山 さき

小郡市立 三国小学校

わたしは、六月に宝満川浄化センターに見学に行きました。宝満川浄化センターを見学し、きれいにされた後、川や海に流されることを学びました。宝満川浄化センターは、わたしの家の近くにありません。何度も通った所に、こんな大切な場所があるとは知りませんでした。

わたしは、宝満川浄化センターで、どのようにきれいにされているのかを知らなかったので、勝手に水がきれいになって、わたしたちの元へ流れてくるのかと思っていました。わたしは、「下水処理場」ってなんだろうと、見学に行くまで思っていました。

わたしたちが使った水は、下水道を通して宝満川浄化センターへ流れていきます。沈砂池で大きなごみや土砂を取りのぞき、次に、最初沈殿池で小さなゴミや泥を沈めます。そのあと、よごれを沈みややすくするために、び生物の入った活性汚泥を水と混ぜ合わせます。この時、よごれと活性汚泥がくっついて大きな固まりになります。しかし、よごれが油だと大きな固まりにすることが出来ないのです。水をきれいにすることが出来ません。

「油は流さずに、キッチンペーパーなどですい取るか固めて、もえるごみに捨ててください。」

と浄化センターの方々が教えてくれました。

活性汚泥とよごれがくっついて大きな固まりになった泥を、最終沈殿池でしずめて上ずみを流します。最後に、川や海に流せるかどうか水

質検査を行って、消毒した後には放流口から川へ流します。

わたしたちの使った水は、いろいろな所へ旅をして、ふたたびわたしたちのもとへもどってくるのです。最初は、勝手に水がきれいになると思っていたから、油を流してしまっていました。けれど、宝満川浄化センターで活性汚泥の働きを学んだから、宝満川浄化センターの方々に教えていただいたように、家族と話合って、油は、キッチンペーパーですい取るか固めて、もえるごみに捨てていこうと思います。水を大切にするために、皿あらいの時はこまめに水を止めるなどして、節水や油を流さないということを心がけて、水という大切な資源を自分で守っていこうと思います。